

ナイルの至宝、古代エジプト文明の遺跡を訪ねて④

(2月6日)

9日目、今日はカイロからアブー・メナーへ向かう。ここは、「聖都アブー・メナー」として世界遺産に登録され、危機遺産にもなっている。地盤が軟弱で地下水が浸みこんでいる。砂に埋もれていたコプト教の聖地である。このような



ところは、きちんと修復・維持管理してもらいたいと思う。遺跡のすぐ近くには新しい修道院が建設されている。近代的で大規模な建物だ。



殉職したメナスの遺体をラクダで運んでいた途中、ラクダが動かなくなったのでその場所に遺体を埋葬したところ、その場所から泉が噴出し、病人がその水を飲み病気が治ったという。その伝説を聞いて多くの病人や人々が集まり、「聖都アブー・メナー」と呼ばれるようになったそうだ。



遺跡の中には、小さな教会があり、神父さんが笑顔で出迎えてくれた。

お祈りを済ませた後、全員で記念撮影。



(2月7日)

10日目に入る。この日はカイロを後にして、アスワンに飛ぶ。アスワンでは、イシス神殿に船で渡って見学する。この神殿もアブ・シンベル神殿と同様に、アスワン・ハイ・ダムができることによって水没する危機に直面した。そこで、隣の現在のアギルキア島に移転された。船が出る岸边にはアंकなど多くの土産物が並んでいた。



もともとフィラエ島は、オシリス神の島でありイシス神がホルス神を生んだ島であったという。

また、後に建てられた教会の遺跡にはコプト十字が残っていた。思っていたより多くの観光客で賑わっていた。エジプト人も多かったように思う。

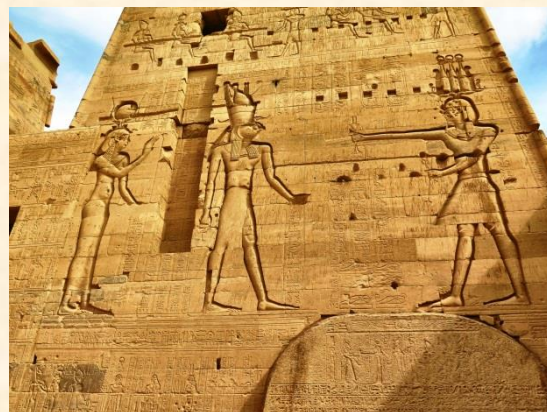
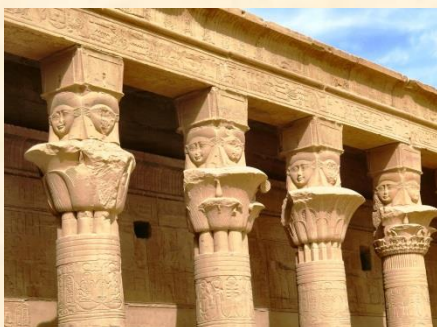


最初に見られるのが、大きな第一塔門。

左側の入口から入ると誕生殿があり、中央の入口からは前庭を通過して第二塔門に通じている。



第一塔門を抜けると前庭があり、左手の列柱を見ると、ハトホル女神の顔が彫られている。第二塔門にも中央にハヤブサの頭のホルス神、その左にイシス女神の大きなレリーフが見られた。そして奥の至聖所には椅子に座るイシス女神がホルス神を抱いて乳を飲ませていた。





イシス神殿を見学した後は、一路アブ・シンベルへと向かう。砂漠の中の道路を走る。ホテルのセテイ・アブ・シンベルに着いたのが夕方近くだった。

ナセル湖の夕日は眩しく、日没後は鏡のようにヤシの木を映し出していた。

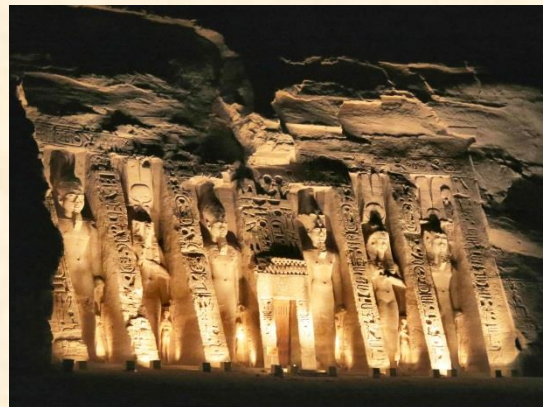
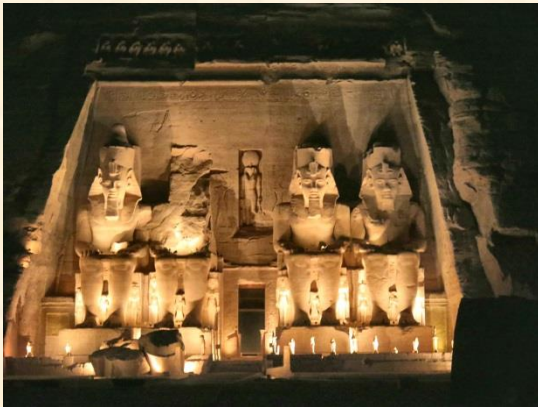


このホテルは、アブ・シンベル宮殿のすぐ近くにあり、神殿までは歩いて行ける。

夜になると、ここで音と光のショーを見ることができる。多数の観光客の国の言語で解説が入るそうだ。もちろんイヤホンガイドで各国の言語で翻訳可能だ。

ちょうど日本人が多かったせいか、日本語での解説があった。

ラムセス2世の活躍を中心とした内容だったが、残念ながら月明かりのため、鮮明なスクリーン映像を見ることが出来なかった。日本語での解説もここまで来て聞くのは少し違和感があった。けれどもライトアップされたアブ・シンベル神殿、アブ・シンベル小神殿は幻想的で、荘厳な姿を醸し出していた。



(2月8日)

11日目に入る。朝日を眺めながらアブ・シンベル神殿、アブ・シンベル小神殿を見学する。小神殿には2体のネフェルタリ像と4体のラムセス2世像が交互に置かれていた。

このアブ・シンベル神殿は、いわば世界遺産条約の理念のきっかけとなった遺跡である。1960年、アスワン・ハイ・ダム建設が始まると、これらの

遺跡が水没することがわかり、ユネスコが、「ヌビアの遺跡群救済キャンペーン」を展開した。世界50カ国から、資金と技術が集まった。そして何と遺跡を小さなブロックに切り分けて高所に移築した。当時としては世紀の大事業だったに違いない。

朝日にあたるアブ・シンベル神殿は、堂々と威厳を保っていた。今こうして立派な遺跡を見学できるのも、先人たちの努力の結晶だと思えば感慨深いものがある。

古代エジプト新王国時代にラメセス2世が建造したが、この神殿の正面の4体の像は、いずれもラメセス2世自身で、左側から若い順に並んでいるとガイドから聞いた。中に入ると、ラメセス2世の像やカデシュの戦いの様子などを描いた壁画があり、最奥部には太陽神ラー・ホルアクティ、国家神アメン・ラー、メンフィスの守護神プタハ、そしてラメセス2世の像があった。

ラメセス2世の誕生日とファラオに即位した日の年に2回、日の出の太陽に照らし出されるように設計されている。



アブ・シンベル神殿、小神殿をじっくりと見学した後、ホテルで朝食をとり、バスでアスワンに向かう。途中でしばしトイレ休憩。砂漠では蜃気楼が見られた。これを見た昔の人々は、きっとあそこに行けば水があり、オアシスを見つけたと思ったに違いない。何とも不思議な自然現象だ。

アスワンのスークは多くの人で賑わっていた。スークでは色々なものが売っていて活気があった。通りには人々が行き交い、買い物をしている。

子供たちも元気で走り回っていた。私たちも店でガラベイヤを試着してみる。そしてお気に入りのものを選んで買い、その後待機していた帆掛け船ダハベイヤに乗り込みチェックイン。



ダハベイヤは思っていたより静かだった。船自体には、モーターはなく、先導する船が引っ張ってくれる。揺れもほとんどない。

部屋に入り、少し休憩するとすでに夕刻近くになっていたが、コム・オンボ神殿に到着して、見学することになった。



この神殿は興味深かった。プトレマイオス時代の二重神殿で、ワニの神「セベク神」とハヤブサの神「ホルス神」が祀られている。奥へ行くと逆になっているとのこと。プトレマイオス13世のレリーフや医療器具のレリーフ、ナイロメーターなども見られた。また、ワニのミイラを見たのは初めてだ。いくつものミイラが並んでいた。



外に出ると夕日に染まる神殿が美しく浮かび上がっていた。夜はダハベイヤで夕食の団欒のひと時を過ごす。

